

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に、地域の出会いの場であり、支え合う仲間であることをあげている。当事業所が地域の拠点になり、地域での生活が広がっていくように取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で幸の理念を考え、実践している。また、新しい職員には、理念を必ず理解して貰い、日々のケアに反映させている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の住民として当ホームを開放し、いつでも地域の子供や人々に交流の場として、活用してもらえるように理念に挙げている。また、家族にも理解してもらっている。理念は玄関や階段を上った位置に掲示し、訪問者が必ず目に付くようにしている。地域に幸便りを発行して、事業所の取り組みを理解して貰っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日、地域の児童が登下校する時間に地域の方達が見守りされているが見守り終了後、必ず立ち寄りお茶を飲んでいただけるようしている。区長さんはじめ、民生委員さん、公民館長さんなど、地域の方にいつでも、気軽に出入りしてもらっている。また、近くの公園で作業があるときは、地域の方が「お茶をよかね」と気軽に声をかけていただき、職員は笑顔で「いつもありがとうございます」と、感謝の言葉をかけている	<input type="checkbox"/> サークル活動として、折り紙教室を月2回開催。地域の住民がグループホームの利用者と一緒に折り紙を楽しまれている。12月と1月は住民の方の希望にて休止中。折り紙だけではなく、音楽の演奏会など開催し、地域の参加をいつも考えた取り組みを行っている。“幸”を拠点に地域の輪が広がっていくようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立当初から、区長さんが積極的に関われ、地域活動や行事等、地域の住民として取り扱ってもらい、沢山の方達との交流の場につなげて頂いた。今では、職員も地域の掃除に積極的に住民として参加している。地域の方から野菜を頂いたり、散歩に出かけると声を気軽に掛けて貰っている。	<input type="checkbox"/> 現在、地域の小学校との交流があり、積極的に学校に出かけたり、訪問してもらって、一緒に楽しむ時間を作っている。高齢者と同居している家庭が少ないため、幸の利用者さん達が自分のおばあちゃんだと思って接していけるよう学校全体で協力して貰っている。これからももっと、地域活動を広げていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>高齢者の集まりや敬老会等に、民生委員さんから依頼され、日常生活で出来る簡単な運動や予防について、事業者の力を活かせる場を提供してもらっている。</p>	○	平成20年2月より地域の方対象に介護教室を開催予定。市の介護保険課からの協力体制も出来ている。男性も参加しやすい教室を目指す。市の広報にも提示予定済み。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前回指摘を受けたところはすぐに改善し、前向きに取り組んでいる。なぜ、外部評価受ける必要があるのか、職員に周知させている。また、外部評価にかかわらず、常に改善すべき所は話し合い、職員側になっていないか等振り返る大切さも全員で話し合って実施している。また、自己評価は職員全員で行い、自分のケアを振り返り、気づきにつなげていけるようしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>2ヶ月ごとの会議では、必ず前の会議後の状況を報告し、意見や考えを述べてもらっている。火災や災害時は、地域の方の協力なしでは出来ないことを毎回伝えて協力体制を確立するよう心がけている。毎回、活発な会議になり、次回を楽しみに参加してもらっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>市の担当者とはいろいろなことで相談をしたり、また、逆に相談を受けたりして、いい関係が保たれている。市との連携で、介護教室を開催することも、運営推進会議で事業所からこんな事をしたいと要望して決定となった。</p>	○	市職員の研修場所として活用して貰い、現場の職員や利用者さんとの交流を図り、よりよいサービスにつなげていけるようにしたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>職員研修や外部での研修で学んだ職員は必ず、他の職員にも伝え、権利庇護に関する知識を理解し活かせるようしているが、実際は活用できていない。わからないことはいつでも話し合うようにしている。権利擁護事業や成年後見制度が必要である人には、いつでも相談できる窓口として、地域にも伝えている。</p>	○	成年後見が必要なケースにきちんと対応できるように、勉強できる場を増やし、必要なときに支援できるような体制を作っていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>職場で委員会を作り、ポスターを掲示したり、アンケートを行ったりして、虐待防止の徹底に努めている。今までに当事業者では虐待は起こっていない。通所利用者で、もしかしたらと思える状態に気づいたら、きちんと担当ケアマネージャに伝え、防止に努めている。</p>		

福岡県 グループホーム 幸

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>		
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>		
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	各職員の年間目標を職員と一緒に立て、その目標に向けたトレーニングや研修を受ける機会を、増やしたい。職員が受けたい研修や講義があれば、積極的に応援していく。
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の意欲を摘みとるような状況があり、向上心を持った職員が離職していくことがある。職員の努力や実績をきちんと評価するシステムが出来ていないと感じる</p>	○	<p>年に2回、職員との面談をして、職員の意見や要望を聞き職員個々の状況を把握することが、必要と思われる。きちんと職員の努力と実績を評価して働きやすい環境作りを目指す。</p>
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
25	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>常に話を傾聴し、本人の望んでいること、困っていることなど受け止めるようにしている。また、本人のおかれている状況をきちんと把握して受け止めるように努力している。</p>		
26	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>小さな事でも相談して頂けるようにしている。少しでも不安や要望があれば、いつでも聴く努力している。</p>		
27	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>きちんと相談をうけ、本人や家族にとって必要なサービスを見極め対応している。</p>		
28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当グループホームでは、一日体験や宿泊体験を利用されたり、短時間ホームで過ごされたりすることが出来るよう対応している。また、同じ職員が対応することで顔見知りになれスムーズに周りの雰囲気にとけ込まれている。訪問する事ができない利用者さんには、職員が会いに出かけ、顔なじみの関係を作るようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に料理の準備をしたり、同じ物を食べたりして、家族同様に生活している。洗濯物をたたんだり、お茶をパックに詰めたりと、自分の出来る仕事をしてもらうことでお互いが支え合う仲間であることを、理念にも挙げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事や活動するとき、また、運営推進会議にも交代で参加してもらったりして、家族とともに本人を支えていることを感じてもらっている。面会に見えたら、必ず、本人の近状を報告し、よい関係を築いている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>当ホームで生活されるようになり、表情が穏やかになった、優しい言葉をかけてもらったなど、本人と家族の関係が、家にいるときより良くなったと家族より嬉しい言葉をいくつも頂いた。これからも、よりよい関係を築いていけるように支援していく。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで住んでいた近所の人や友人が面会に見える。また、行事等があるときはいつでも声をかけて参加してもらっている。個別ケアにて自分の行きたい場所にドライブに行くこともある。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>なるべくフロアで楽しく過ごしてもらえるように、気のあった人同士で腰掛けたり、一緒に同じ手伝いをしてもらったりして、孤立しないように対応している。トラブルになりそうときは、すぐに職員が間に入り、ゲームをしたり、ドライブに出かけたりして気分転換を図り、みんなが いい関係を保てるよう対応している。食事やおやつは職員も同じものを食べている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>終了しても、行事がある時に参加の声をかけたり、お便りを出したりして関係を大切にしている。</p>	
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来るだけ、本人の思いを大切にしている。認知症により困難な場合は、どうしたらよいか会議で話し合い、本人本位で考え対応している。職員が自分が認知症になったらどうしたいか、どうして貰いたいかなど、立場を置き換えてケアするよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
37	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		
40	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	特になし	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近くの小学校の行事に出かけたり、総合教育として小学生との関わりが持てたり、ボランティア演奏など、地域との輪が広がり、認知症でも普通の高齢者と同じ事を同じように出来ることを、地域資源を活用しながら支援してる</p>	<p>○</p> <p>まだまだ、地域資源を沢山活用できるようにしたい。現在は徘徊する方はいないが、これから先、警察、消防機関等にも協力を求めたい。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>11月末までは併設のデイサービスを利用できていたが、休止になったために、現在は他のサービスを使用していない。</p>	<p>○</p> <p>他の事業者との連携や地域のケアマネジャーと連携して生活支援に結びつけたい。</p>
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>定期的に包括支援センターと連絡とっている。</p>	<p>○</p> <p>平成20年1月に権利庇護の勉強会があるため、参加して成年後見制度が必要と思われる利用者に、地域包括支援センターと協力して支援していく。</p>
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の希望にてかかりつけ医が決まっている。定期的な受診と急を要する場合や何かあればいつでも相談できる関係をそれぞれに築いている。</p>	
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医とは、受診の薬、相談したり、アドバイスを頂いて良い関係を保っている。専門医ではなくとも、利用者が一番理解して診断や治療をしてもらっている。</p>	
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>毎日の健康管理を行い、受診報告ノートを活用している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>48</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した場合、見慣れた職員が必ず毎日顔を見せることで安心して過ごせるように対応している。また、早期に退院できるように医師や病院関係者との情報交換や相談は密に行い、早期退院に向けている。</p>		
<p>49</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>出来るだけ早い時期から、ターミナルケアに向けての話し合いを行ってきた。本人や家族の意向を尊重した看取りをかかりつけ医を含め、全員で話し合い、方針を共有している。</p>	○	<p>医療連携加算体制ではなくなったため、今まで以上に終末期のあり方について、家族との話し合いを早め、終末期に向けてきちんと対応出来るようにしていく。</p>
<p>50</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期の利用者がいる場合、カンファレンスで今後の対応や方法を十分話し合い、かかりつけ医との連携・チームとして支援し全員が把握して取り組んでいるp。</p>	○	<p>毎日の様子観察にて、体調の変化に気づけるのは事業所である私たちの役目であり、それをきちんとかかりつけ医につなげることが出来るかが大切になるため、「できること・できないこと」を見極め、チームとしての支援に取り組む。</p>
<p>51</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今までに関わってきたことやケア状況を情報提供して住み替えのダメージを防ぐよう努めている。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>52</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーをそこねない声かけや対応は、毎日、十分に注意している。本人のプライドを大事にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
54	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
56	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
57	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
58	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>〇入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一通り入浴日を決めているが、入りたくない方は、翌日や入りたいたいときに入浴して貰っている。入浴拒否がある方は、入る前は拒否されても入浴されると「ありがとうね。極楽、極楽」と喜んで貰っている。</p>		
60	<p>〇安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>その人の状況に応じて、安心して休息がとれるようにしている。昼食後、30分の昼寝をする方もあり。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	<p>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>その人に出来ることを手伝って貰っている(掃除、洗濯たたみ、繕い物など)。誕生日月は行きたいところに出かけ、食事をしたり、お茶を飲んだり楽しく過ごせるよう計画している。温泉に職員と入った人もある。地域の子供らとの触れあったり、出店で買い物を楽しんだりして、普通の生活を楽しめるよう支援している。</p>		
62	<p>〇お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来る方は、自分でお金を所持されているが、殆どの方が預かっている。お参りに行ったり、買い物に行ったときは、一人ずつ、お金を渡し、自分で支払いやおみくじを買ったり出来るよう支援している。</p>		
63	<p>〇日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。お天気の良い日は、近くの公園に散歩に出かけることもある。</p>		
64	<p>〇普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>その人の誕生プランとして行きたいところを尋ね出かけている。自宅に帰りたいと希望の方や高塚地蔵にお参りに行きたいなど、家族に了解を取り、援助して実施している。</p>	〇	<p>その人の状況に応じて、家族との小旅行を企画して実施したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> <p>希望されたらいつでも電話をかけたり、手紙を書いた郵便をポストに投函したりして支援している。</p>		
66	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p> <p>いつでも、訪問して頂けるように声をかけたり、訪問されたら気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。小さな子供さんを連れて見えたら、おもちゃやゲームで退屈しないよう心がけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
67	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> <p>身体拘束は行っていない。職員全員がきちんと理解している。</p>		
68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>日中、玄関も居室もオープンにして、鍵はかけないケアを行っている。夜間の20時～朝の6時だけ施錠している。(夜勤帯のみ)</p>		
69	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>常に、所在を把握し、職員間で声掛け合って安全確認を行ったいる。</p>		
70	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>状態、状況に応じて、対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
80	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
81	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
82	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		

福岡県 グループホーム 幸

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>テーブルの高さを変えて、ひとりひとりが正しい姿勢で食事がとれるようにする事で、誤嚥やムセを防ぎ、また、食欲増進につなげていく。トイレに手すりをつけ、マヒのある方も立ち上がりがスムーズにできるよう配慮していきたい。</p>
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
89	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

福岡県 グループホーム 幸

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初から地域に根ざしたグループホームを考えていたために、積極的に区長さんや老人会長さんに援助を求めていき基盤を作ってもらい、現在は、地域の住民の方や学校関係等に“幸”を理解して頂き支援して貰っている。小さな種が少しずつ芽を出し花が咲き始めている。幸オープン以来、誰でもがいつでも、立ち寄れる場所であり、相談も気兼ねなくできる場として職員全員でとりくんでいる。そのために、玄関は夜間以外に閉める事が無くオープンにしている。近くの公園で掃除があれば出向き、一緒にお茶を飲んで貰い、交通当番の方には、帰りによって頂き、一服して貰える関係が出来上がっている。今年度は近くの小学校の3年生の総合学習の一つとして“幸”の利用者さんとの交流を取り入れて頂いた。これも区長さんのお陰である。現在は、核家族が多いために、お年寄りと係わる事が少ない児童がたくさんいるが、全ての児童が、自分の担当の利用者さんを自分のおばあちゃんやおじいちゃんとして受け入れてくれ、すぐ忘れる利用者さんに同じ事を何度も教えたり、話している姿をみて、幸の利用者さんの存在感と社会参加を改めて感じたものである。また、地域のアンビシャスの子供や地域のボランティアの方によって、たくさんの人達とのふれあいがドンドン広まっていく事ができ、地域の住民に恵まれ感謝する日々である。わがグループホームの活動での喜びは、普段の生活の中で、地域の子供の見守りや子育てに少しだけ携わっていける事である。“幸”を拠点に、地域の輪が大きく広がっていく事は、“幸”で生活している利用者さんにとって、安心して暮らしていける場所につながっている。これからも、地域の福祉向上を目指し、安心して自分らしく生活できるホームでありたい。そして、地域資源をもっと活用して住民の一員として生活していきたい。